

香川の医療最前線

298

四国こどもとおとなの医療センター眼科医長 小木曾正博氏



1985年徳島大学医学部卒。同大医学部付属病院、回生病院、徳島大を経て94年に旧国立善通寺病院、2013年から現職。日本眼科学会専門医。岡山市出身。55歳。

生まれたときの体重が2500g未満の低出生体重児。出生数が年々減少する中、低出生体重児の割合は増加している。これは新生児医療の進歩で低出生体重の赤ちゃんを救えるようになったことが主な要因という。並行して未熟児網膜症も増加しており、眼科の役割は重要となっている。四国こどもとおとなの医療センターの小木曾正博・眼科医長に未熟児網膜症の症状や治療方法を聞いた。

未熟児網膜症

早期の出生に危険性

薬注射で症状進行抑制も

も多い。

悪化するのとはどんな場合か。

体重や在胎週数が少ないほど悪化しやすい。網膜の血管の有る部分と無い部分の境界に異常な膜状組織が形成され、これが収縮して網膜をひっぱり網膜剥離を起し、最悪の場合、失明することもある。重症化のメカニズムは、網膜の血管が無い部分(無血管野)から

生血管ができる。新生血管はもろいので血液成分が漏れたり出血したりして、それが膜状組織となる。

重症化時の対処法は、

無血管野から「血管を伸ばせ」というシグナルが出るのを止めるため、レーザーで無血管野を焼きつぶす「網膜光凝固」が1980年代から行われている。適切に行えば進行を食い止めることができるが、網膜を

焼くので視野が狭くなったり、目に炎症が起ったりと視力が悪くなる可能性がある。赤ちゃんの体力的な負担もある。重症例では進行を抑えきれないこともあるが、きちんとした効果があることが認められている唯一の治療法だ。

最近注目されている新しい治療もある。

無血管野からのシグナルは、実際は「血管内皮増殖因子」という物質。この物

質の動きを妨げる薬が既に開発されていて、外科領域でがんの増殖を抑制する目的で活用されている。この薬を目に注射すれば、網膜症の進行を抑えられる。まだ、一般的な治療でなく保険適応でもないが、当院では院内の倫理委員会を通して上で行っている。

効果は、

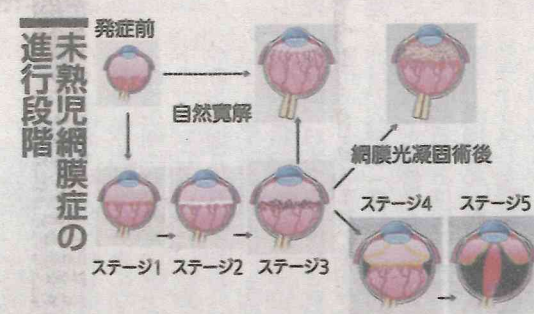
進行は明らかに抑えられる。網膜を焼きつぶさない

ので視野が狭くなる恐れもない。治療は短時間で赤ちゃんの体力的な負担もわずか。ただ、新生血管と同様に正常血管の伸びも抑制するので、網膜無血管野は自然治癒の場合以上に長く残存する。数年前に始まったばかりで長期的な予後は不明。副作用や適切な投与量なども、まだよく分かっていないことがあり、症例を選んで慎重に行っている。

未熟児網膜症とは。網膜の血管は、子宮の中で網膜の中心から周辺に向かって伸び、妊娠36週ほどで完成するが、早く生まれると、血管は途中でしか伸びない。実は、子宮の外では網膜血管はうまく伸びることができず、伸びが極端に遅くなる。代わりに新生血管というもうい異常血管が出現し何本にも枝分

か。体重や在胎週数が少ないほど悪化しやすい。網膜の血管の有る部分と無い部分の境界に異常な膜状組織が形成され、これが収縮して網膜をひっぱり網膜剥離を起し、最悪の場合、失明することもある。重症化のメカニズムは、網膜の血管が無い部分(無血管野)から

生血管ができる。新生血管はもろいので血液成分が漏れたり出血したりして、それが膜状組織となる。



進行段階 未熟児網膜症の進行段階

四国こどもとおとなの医療センター眼科
白内障手術は年間500例以上。加齢黄斑変性や黄斑浮腫に対する眼球への注射治療を積極的に実施している。常勤医は2人。
所在地：善通寺市仙遊町2-1-1
電話：0877(62)1000
http://www.shikoku-med.jp/